

関裕二

「女性天皇 誕生の謎」





「女性天皇」誕生の謎

関 裕二

関 裕二—1959年、千葉県柏市に生まれる。歴史作家。仏教美術に魅了されて奈良に通いつめ、独学で古代史研究をはじめ。1991年に『聖徳太子は蘇我入鹿である』（ワニ文庫）でデビュー以後、新しい視点から古文書を読み解き、深い洞察と大胆な推理に支えられた著作を数多く発表している。

その他の著書には『古事記逆説の暗号』（東京書籍）、『天皇名の暗号』『王剣強奪』（以上、芸文社）、『伊勢

神宮の暗号』（講談社）、『平城京は古代豪族の墓標だった！』（宝島社新書）、『神武東征の謎』『出雲抹殺の謎』（以上、PHP文庫）、『藤原氏の正体』『蘇我氏の正体』（以上、新潮文庫）、『日本書紀』が隠し通した天皇の正体』（廣済堂文庫）、『古代日本列島の謎』『古代史』謎解きのヒント』『「天皇家」誕生の謎』（以上、講談社+α文庫）などがある。

講談社+α文庫「女性天皇」誕生の謎

せき ゆう じ
関 裕二 ©Yuji Seki 2010

本書の無断複写（コピー）は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

2010年 8 月20日第 1 刷発行

発行者——鈴木 哲

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部(03)5395-3529

販売部(03)5395-5817

業務部(03)5395-3615

カバー写真——東京国立博物館

Image:TNM Image Archives,Source:<http://TnmArchives.jp/>

著者写真——村田克己（小社写真部）

本文写真——関 裕二

デザイン——鈴木成一デザイン室

本文データ制作——講談社プリプレス管理部

カバー印刷——凸版印刷株式会社

印刷——慶昌堂印刷株式会社

製本——株式会社千曲堂

落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えます。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは生活文化第二出版部あてにお願いいたします。

Printed in Japan ISBN978-4-06-281383-9

定価はカバーに表示してあります。



● もくじ

はじめに 3

第一章 女帝とは何か

歴史の激動期に登場した女帝たち 16
折口信夫「女帝Ⅱシャーマン」論 18

井上光貞「女帝Ⅱ中継ぎ」論 20

「中継ぎ」という根拠 24

変質していく、女帝の本質 26

否定された旧説 28

上田正昭「女帝三段階」論 30

女帝は特別な存在ではないのか 33

「性差の克服」は必要なのか 36

第二章 女帝持統の野望

北九州が恐れた地形 39

ヤマトはなぜ、建国されたか 42

王に課せられた役割 44

各地の首長がヤマトを「選択」した 46

王は世襲されていなかった 48

争いを避けるための手段 50

変化していく王家 53

初めての讓位が意味するもの 56

人々が恐れた呪術の力 59

豊穰をもたらす女神 61

兄弟を守る「妹の力」 63

霊的な絆を保つか、切るのか 66

兄と弟の微妙な関係 72

「蘇我」勢力と結ぶ者、反する者 75

持統につきまとう巫女王のイメージ 77

聖地・吉野には何があるのか 79

地形から読み取れる特別な意味 83

天照大神にまつわる神話世界 86

すり替えられた天照大神 88

三輪山の神の「女装は方便」 91

聖武天皇の奇妙な言動 94

なぜ、太陽神の性が替えられてしまったのか 96

伊勢神宮の成り立ちへの疑義 100

宮中から外に出された日神 102

書き分けられていた天照大神と日神 104

男女をすり替えた人物は誰か 107

「伊勢に祀られる神は男」 111

「本物の神」は床下に隠された 114

神と結ばれる女性の力 117

「白袴しろたへの衣」の秘密 119

奪われた天の羽衣 122

第三章 女帝皇極の悲劇

政權奪取の野望

124

天武の外交を継がなかった持統

126

新しい王家の誕生

128

無視できない古代人の信仰心

132

謎に満ちた即位のいきさつ

133

言葉を失った皇極

135

見直されつつある「蘇我」像

138

『日本書紀』に登場する「ネズミ」の正体

141

謎をめぐる意外なヒント

144

蘇我が「王」になるためのトリック

147

政局に翻弄はんろうされた女帝

152

持統の兄弟関係が特定できない不思議

155

建皇子は死んだのか

157

建皇子と出雲と蘇我

160

後飛鳥岡本宮はどこにあったのか 163

草壁皇子を隠した『日本書紀』 165

岡宮Ⅱ岡本宮に現れた意図 167

拉致された女帝 170

斉明という靈力の奪い合い 173

人質となった多くの女性たち 174

建皇子と漢皇子を結ぶ赤い糸 177

天智と天武、年齢逆転の不思議 180

天武天皇が漢皇子、なのか 183

斉明天皇はレガリアだった 185

第四章 女帝推古と二つの勢力

「トヨ」の意味するもの 190

「記紀」はなぜ、女帝の時代で筆を置いたのか 192

推古天皇登場のきっかけ 194

物部と蘇我の仏教をめぐる争い 196

対立の背後に何があつたのか 199

斬られた天皇 202

「大々王」とは何者か 205

天皇に「わが一族」と語りかけられた物部 207

推古天皇と物部氏の接点 209

物部系文書に描かれた「蘇我」 213

二つに分かれた蘇我系皇族 216

聖徳太子の母は物部系か 219

『隋書』に記されなかった女帝の存在 222

古墳時代の終焉と聖徳太子の出現 224

五世紀に始まった混乱の歴史 227

日本海と東国、二つの勢力が合体 230

息を吹き返した没落勢力 232

女帝は「聖なる存在」として求められた 235

皇極天皇の「秘密」が隠されたわけ 237

混乱を収拾した女帝たちの霊力 240

おわりに

243

天皇系図（二〇五〇代）

250

248

「女性天皇」誕生の謎

関 裕二

講談社+α文庫

●カパー写真：法隆寺献納宝物、重文・弥勒菩薩半跏像。台座框の刻銘に推古一四（六〇六）年または天智五（六六六）年、高屋大夫が亡き妻のために発願造立した、とある。

はじめに

まずは、目に見える形で「女帝」の謎を実感していただく。

それは、前方後円墳ぜんぽうこうえんとの関係である。

前方後円墳といえ、世界最大の面積を誇る、日本固有の墳墓として知られる。この墳墓が日本各地に造られた時代を、古墳時代と呼んでいる。三世紀後半から六世紀末にかけてのことだ。

この前方後円墳と女帝が、奇妙な因果で結ばれている。というのも、古墳時代をはさんで、女王、女帝の時代があるからだ。すなわち、二世紀末から三世紀に邪馬台国やまたいこくの卑弥呼ひみこと台与とよ（壹与いよ）が活躍し、六世紀末から八世紀にかけて、雨後の竹の子のように、推古天皇すいこ以後の女帝が登場している。まさに、ブックエンドのように、女帝は古墳時代をはさみ込んでいるのである。

なぜ、前方後円墳体制の誕生と終焉しゆうえんに、女王、女帝がからんでいるのだろう。そもそも前方後円墳とはどういう存在なのだろう。

その巨大さから、力の象徴のようににも思える。だが、それは勘違いのようだ。

三世紀後半にヤマトの盆地に出現した巨大前方後円墳は、多くの地域の埋葬文化を

寄せ集めて造られていた可能性が高くなってきた。各地の首長層の総意によってヤマトが建国され、各地の首長もヤマトの王と同じ規格の前方後円墳を築くことによって、統一された宗教儀礼を行い、同盟関係を確認していた。つまり、ヤマトの王家はけつして独裁王ではなく、ヤマト建国は征服戦ではなかったのである。

前方後円墳が出現する以前の日本列島は、中世戦国時代を彷彿させるような戦乱に明け暮れていた。ところが、邪馬台国の卑弥呼と台与が登場すると、混乱は収拾され、前方後円墳の時代に突入する。

古墳時代が終わりを迎える時代も、混乱を極めた。物部氏と蘇我氏の仏教導入をめぐるいさかいがあり、崇峻天皇弑逆事件へと続き、推古天皇の出現によってようやく安寧を取りもどした。そして、ここからヤマト朝廷は、律令制度の整備に取りかかったのである。

このように見てくると、女王、女帝の時代が、「新たな時代を築くための産みの苦しみ」であつたかのように思えてくる。

女帝は、なぜ求められたのか。その真相に迫ってみよう。

● もくじ

はじめに 3

第一章 女帝とは何か

歴史の激動期に登場した女帝たち 16
折口信夫「女帝Ⅱシャーマン」論 18

井上光貞「女帝Ⅱ中継ぎ」論 20

「中継ぎ」という根拠 24

変質していく、女帝の本質 26

否定された旧説 28

上田正昭「女帝三段階」論 30

女帝は特別な存在ではないのか 33

「性差の克服」は必要なのか 36

北九州が恐れた地形 39

ヤマトはなぜ、建国されたか 42

王に課せられた役割 44

各地の首長がヤマトを「選択」した 46

王は世襲されていなかった 48

争いを避けるための手段 50

変化していく王家 53

初めての讓位が意味するもの 56

人々が恐れた呪術の力 59

豊穰をもたらす女神 61

兄弟を守る「妹いもの力」 63

霊的な絆を保つか、切るのか 66

第二章 女帝持統の野望

兄と弟の微妙な関係 72

「蘇我」勢力と結ぶ者、反する者 75

持統につきまとう巫女王のイメージ 77

聖地・吉野には何があるのか 79

地形から読み取れる特別な意味 83

天照大神にまつわる神話世界 86

すり替えられた天照大神 88

三輪山の神の「女装は方便」 91

聖武天皇の奇妙な言動 94

なぜ、太陽神の性が替えられてしまったのか 96

伊勢神宮の成り立ちへの疑義 100

宮中から外に出された日神 102

書き分けられていた天照大神と日神 104

男女をすり替えた人物は誰か 107

「伊勢に祀られる神は男」 111

「本物の神」は床下に隠された 114

神と結ばれる女性の力 117

「白袴しろたへの衣」の秘密 119

奪われた天の羽衣 122